



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

有田2000 ロータリークラブ

No. 973
Club Bulletin

会長 梅本茂喜
幹事 中屋喜臣
クラブ会報委員長 森 誠

青少年奉仕月間

四つのテスト 言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

例会日/毎週水曜日 19:00
事務局・例会場/〒643-0025
有田郡有田川町土生409
吉備インターゴルフセンター
TEL0737-52-8960
FAX0737-22-6800
E-mail: info@arida2000rotary.club
URL: http://arida2000rotary.club/

本日のプログラム

令和4年5月18日(水) 第974回
ソング「君が代」「奉仕の理想」
会長の時間 幹事報告 委員会報告
ニコニコ箱報告 出席報告
会員卓話 大浦輝彦君

次回のプログラム

5月25日 次年度会長のための時間
芝毅君
6月 1日 会員卓話 下林善信君
6月 8日 田栖川小 校長前田和也様

前回の報告(第973例会)

開催日 令和4年5月11日(水)
ソング「君が代」「奉仕の理想」
会長の時間 幹事報告 委員会報告
ニコニコ箱報告 出席報告
卓話: 会員卓話 樋口明君

●会長の時間● 梅本茂喜君

皆さん 今晚は、今日は人生を気楽に生きるという事を考えたいと思います。まずは「明日にのぼせることをきょうするな」これは亡くなられた「プロゴルファー猿」などで知られる漫画家の、藤小不二雄Aさんが好きだった言葉だったと言います。<言い方を変えれば「気楽な生き方をしろ」という事だ。もし何かで悩んでいたら呪文のように唱えて下さい>。と著者に書かれています。誰しものんびり余裕を持って生活してみたいところですが、実情そうはいかない事が多くて悩ましいですね。そこで、人生を気楽に生きる方法について考えました。

- ・休みの日には仕事の事を考えない様にしよう!
- ・他人の目を気にしない様にしよう!
- ・もっと自分らしく気楽にいきる!



この様に思っても思い道理には行きません。気楽に生きている人とそうでない人とはどのような違いがあるのか?

まず

- ・気楽に生きる人の特徴としては自分軸をしっかり持っている人。他人と比較せず、自分にとってどうか?で判断して、行動する。一方世間体を気にする人は、他人から見ても無難、もしくは羨ましいと思われる選択をしがち。
 - ・自分を大きく見せようとせず、身の丈に合った生き方をする。
- 普段の買い物なども身の丈にあった選択ができず常にお金を気にして生活をしてしまう。
- ・多くの人は楽観的で、「まあ何とかなるでしょう精神」なので、くよくよ悩むことがない。いい意味で適当さがあり、とりあえずやって行動力がある。

・自分に正直 Noとはっきり言ったり、気まずくなりそうでも本音を言ってストレスをためない。

人生を気楽に生きる七つの方法。

- ・人生の目標を明確にする。
- ・自分の意見を正直に言う。
- ・依存しない
- ・過去や未来のことばかり考えない
- ・先入観をすてる。
- ・一人で行動してみる。
- ・環境を変える。

人は環境の生き物と言われていますが、生きる

場所や関わる人が変わるだけで変化があるのではないのでしょうか。

●幹事報告●

幹事 中屋喜臣君

- ・国際ロータリー第2640地区ローターアクト 第40回地区年次大会のご案内(回覧)
- ・例会変更はホワイトボードに掲示
- ・本日例会終了後、第9回理事会があります。
- ・次回の例会は令和4年5月18日の会員卓話です。担当大浦さんよろしくお祈いします。



●委員会報告●

親睦委員会

お誕生日御祝

おめでとうございます

5月 樋口明君



●ニコニコ箱報告●

梅本茂喜君：皆さん 本日の出席ありがとうございます。樋口君本日は宜しくお祈いします。

中屋喜臣君：皆様 お疲れ様です。本日の卓話樋口さん宜しくお祈いします。

永石睦巳君：樋口さん 本日は宜しくお祈いします。

森誠君：みなさんこんばんは。樋口さん本日は卓話宜しくお祈い致します。

下林善信君：樋口君 本日の卓話宜しくお祈いします。

前任君：樋口さん 本日の卓話よろしくお祈いします。

大浦輝彦君：みなさん こんばんは樋口さん本日の卓話宜しくお祈い致します。

浦崎寿光君：皆様 こんばんは 樋口さん本日の卓話宜しくお祈い致します。

樋口明：皆さん こんばんは。本日卓話させていただきますので宜しくお祈い致します。

●出席報告●

前任君



	会員数	出席者数	出席率
本日の出席	15名	12名	80%
7月から平均		11.9名	79.3%

●会員卓話● 米山記念奨学会のあゆみ

樋口明君



米山奨学事業は、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した実業家米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。1952年、東京ロータリークラブが発表したのは、海外から優秀な学生を日本に招き、勉学を支援する事業「米山募金」の構想でした。そこには、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、国際親善と世界平和に寄与したいという、当時のロータリアンたちの強い願いがあったのです。この事業は、わずか5年の間に日本全国のロータリークラブの共同事業へと発展し、1967年には、文部省(当時)を主務官庁とする「(財)ロータリー米山記念奨学会」が設立される運びとなりました。現在、50年以上の歴史を持ち、RIから認証を受けた日本のロータリー独自の多地区合同奉仕活動(手続要覧33および93頁)です。現在も、「将来の日本の生きる道は平和しかない。その平和日本を世界に理解させるためには、アジアの国々から一人でも多くの留学生を日本に迎え入れて、平和日本を肌で感じてもらうしかない。それこそ、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないだろうか」という思いを込めて運営されています(ロータリー米山記念奨学会史より)。

米山記念奨学会の特徴

日本最大の民間奨学事業

ロータリー米山記念奨学会は、全国のロータリアンの寄付金を財源に日本の大学、大学院をはじめとする高等教育機関で学ぶ外国人留学生に対して奨学金を支給しています。

寄付金の使途・財政の推移

ロータリー米山記念奨学事業の財源は、ロータリアンからの寄付のみで支えられています。そしていただいた寄付はすべて奨学生の為に使われています。2007-08年度は14億5200万円、2008-09年度は14億9000万円でした。1957年に全国組織となってから累計で、447億円の寄付がありました。

米山記念奨学会では、財政の健全性、透明性の確保に努めており、事務費や補助費の見通しをしながら寄付金収入に見合った支援を行っています。それぞれの学友会によって活動内容は異なりますが、地区米山奨学委員会やロータリアンと連携して交流を深める様々なイベントを企画し、活動しています。引き続きご寄付のご協力をお願いします。



●閉会点鐘● 梅本会長